

苅田港港湾脱炭素化推進協議会(第1回:12月25日開催)

- 福岡県は、苅田港における脱炭素化に配慮した港湾機能の高度化や、水素等の受入環境の整備等を図るカーボンニュートラルポート(CNP)を形成するため、「苅田港港湾脱炭素化推進協議会」(事務局：福岡県県土整備部港湾課)を設置。第1回協議会が令和5年12月25日に開催され、苅田港湾事務所も参画した。
- 福岡県から、苅田港の脱炭素化に向けた取組として、民間事業者へのアンケート調査結果の報告、港湾脱炭素化推進計画の作成イメージ等の説明があり、民間事業者(3社)から、脱炭素化に資する取組について紹介があった。
- 構成員からは、苅田港における今後の取組に関する具体的な意見や質疑等があった。



協議会の開催状況



(九州商工会議所 三原会頭)



(九州地方整備局 苅田港湾事務所 本田所長)

質疑等の状況

構成員一覧

【企業等】

株式会社IHI
 麻生セメント株式会社
 ヴェオリア・ジャパン合同会社
 川崎重工業株式会社
 苅田港海陸運送株式会社
 苅田バイオマスエナジー株式会社
 株式会社九州テクノメタル
 九州電力株式会社
 九州ホイール工業株式会社
 商船三井テクノトレード株式会社
 株式会社商船三井さんふらわあ
 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
 太平洋セメント株式会社
 トヨタ自動車九州株式会社
 豊通スメルティングテクノロジー株式会社
 日産自動車九州株式会社
 日産車体九州株式会社
 株式会社日本海水TTS苅田パワー
 日本磁力選鉱株式会社
 日本通運株式会社
 バイオパワー苅田合同会社
 UBE三菱セメント株式会社
 ユニ・チャームプロダクツ株式会社

【行政機関・団体】

苅田商工会議所
 苅田町
 国土交通省 九州地方整備局 苅田港湾事務所
 福岡県 環境部
 福岡県 商工部

【事務局】

福岡県 県土整備部

【日時】令和5年12月25日(月) 14:00~16:00

【場所】ブルーポートホテル苅田北九州空港

1. 開会
2. 規約
3. 議事
 - (1) 港湾法改正・マニュアル改訂
 - (2) 苅田港港湾脱炭素化に向けた取組
 - (3) 情報提供
 - (4) 企業の取組
 - (5) 今後のスケジュール
 - (6) 意見交換
4. 閉会

第1回 苅田港港湾脱炭素化推進協議会

議事概要

日時： 令和5年12月25日（月）14:00～16:00

場所： ブルーポートホテル苅田北九州空港（会議室ダイヤモンド）

開催形式： 対面及びWebの併用

【議事概要】

（議事2：規約）

事務局より、規約（案）を説明し、構成員の承認を頂いた。

（議事3—1：港湾法改正・マニュアル改訂について）

事務局より、港湾法の改正及びマニュアルの改訂について説明し、確認を行った。

- ・ 港湾法の一部改正
- ・ 各港における港湾脱炭素化推進協議会の設置状況
- ・ 「港湾脱炭素化推進計画」マニュアル改訂

（議事3—2：苅田港港湾脱炭素化に向けた取組について）

事務局より、昨年度に実施した前回協議会の振り返り、アンケート調査結果、港湾脱炭素化推進計画（イメージ）について説明し確認を行った。

<構成員>

CO₂削減に向けて、各企業は努力し取組を進めていると思う。今後、水素・アンモニアの活用が大きなテーマになると思うが、苅田港では、何を目標しているのか。

<事務局>

本協議会を通じて関係者で議論を重ね、連携し、従来の燃料をどのように水素・アンモニア等の次世代エネルギーに転換していくのか、また、港湾でどのような取り組みができるのかを見出し、苅田港のカーボンニュートラルに近づいていくことを目指す。

<構成員>

他港の先進事例も参考に道筋を作ってもらいたい。

<構成員>

荻田港では、バイオマス発電所の木材チップ等を扱うために、今年度より新松山地区で岸壁等の関連施設を整備している。「港湾・臨海部における脱炭素化に貢献する事業」として検討頂きたい。また、各企業においても、バイオマス及び水素の受入整備等について検討しているものがあれば、この事業の中に盛り込んでいけるのではないかと。

<事務局>

岸壁等の整備につきましては、「港湾・臨海部における脱炭素化に貢献する事業」として検討させていただきます。また、各企業におかれましても、検討されている取組等があれば、事務局に情報提供いただきたいと思います。

(議事3—3：情報提供について)

事務局より、CNPの形成に資する技術・取組の事例、国土交通省が実施する「港湾におけるGXの推進」、「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」等について説明を行った。

(議事3—4：企業の取組について)

構成員3社より、脱炭素化に資する取組について紹介頂いた。

<構成員>

水素・アンモニアの利用・活用を促進するため関連施設を造る規模をある程度想定してもらいたい。

<事務局>

将来、水素・アンモニアを利用する施設の整備が考えられるが、需要を把握する必要があると考えている。

(議事3—5：今後のスケジュールについて)

事務局より、今後のスケジュール及び次回協議会の予定について説明を行った。

以上